

道標ない旅

自分も人も大切に

～思いやり
・チャレンジ
・しなやかな心～



◆◆ 熱中症対策、とても重大な課題と認識しています。 ◆◆

15日から全校での登下校が始まりました。15日は、前日との気温差が激しく、葉山町でも10時頃には、28度を超え、30度近い時間帯が続きました。まさに熱中症が起こりやすい環境がそろってしまいました。

3時間で下校でしたが、下校途中で体調を崩す児童が1名出ました。本校のスクールガードさんが見守って下さっていたので、すぐに異変に気がついていただけのようです。大変有り難いことです。長柄東駐在所のおまわりさんも駆けつけて下さり、本人をご自宅まで送って下さいました。スクールガードさんからお電話をいただき、学校としても事態を把握することができました。

今回は大事に至る前に、なんとか難を逃れましたが、今後のことを考えると課題が残ります。以下の対策はすぐに取れると判断し、地域の皆さまにお伝えし、ご理解ご賛同いただければと存じます。

1. マスクは、登下校時には着用しなくても可とします。(町のHPにも同方針が掲載されました。)
2. 日傘・雨傘をさしながらの登下校を許可します。
3. 登下校の途中でも、安全な場所であれば水分を自分の判断で取って構いません。

これから一層暑くなることを考え、何卒ご理解、ご支援いただければ幸いです。

◆◆ 日本の教育が大きな変換期を迎えようとしていること、皆さんはお気づきでしょうか。 ◆◆

先進国と言われる日本ですが、日本における教育でのコンピュータ活用は、どの程度かご存じでしょうか。経済協力開発機構(OECD)が、昨年末に発表した、2018年の学習到達度調査の結果で、「日本の15歳は、ネットで多様な情報を読み解いたり、必要な情報を選び出したりする力が弱いことが浮き上がりました。チャットやゲームで遊んでも、学習に利用する時間が少ないことも分かりました。特に、授業でデジタル機器を使う時間は、OECD加盟国(欧州諸国、米国、日本などを含む34カ国の先進諸国によって構成されており、これら34カ国の他、欧州委員会(EC)もOECD諸活動に参加しています。)の中で最下位でした。

そのような状況なので、おそらく本校を含め、全国の学校の職員室ではほとんどまだ注目されていない、あまり話題にも上がっていないことかもしれませんが、今回のコロナウイルス感染症による臨時休校の穴埋めとして、文部科学省はGIGAスクール構想を、軸に据えたようです。

実際、財務省や総務省は、当初、「教育効果が不透明」「急な全国一律の整備で運用しきれない」と懸念を示していたのですが、臨時休業の穴埋めの必要性からも、事態は一気に変わり、課題とされた国レベルでの予算が通ったのでしょうか、全国の市町村も前倒しで補正予算を組み、補助金でGIGAスクール構想を現実に進める流れが作られました。横浜市や、藤沢市で生徒児童一人ひとりに、1台タブレットを配付する記事が早々と新聞に載りましたので、この記事には気づかれた方も多いかと思います。葉山町も当然GIGAスクール構想を進めていくこととなります。

この記事(一人1台配付)は、実は教育の姿が大きく変化することを意味するはずですが、ところが、配られるタブレット類は、「何でもできる」可能性のあるツールなのですが、「何にもできない」ツールでもあるのです。国は、配ること、一人1台という状況づくりには本気ですが、残念ながらそれがどう使われるかについては、あまり気を配っていないように見えます。「職員室で話題に上がっていない」状況は、まさにそのことを示しています。タブレット配付には、そのセットとして、「教員が使いこなせるための研修・練習」が絶対に必要だと考えます。それゆえ、1. 今までの授業スタイルで充分だと考えている教員は関心を示すか? 2. コンピュータの流れに習熟していない教員もいる。宝の持ち腐れにならないか?といった課題が出てきます。この課題を学校内で上手に克服して、児童のためになる有用な活用を目指していく必要があります。大人はパソコンやタブレットをツールとして使っています。子どもたちが教室で学習ツールとして活用できるようにするのは、時代の必然であると言えます。子どもの学びをどう進めていくか、職員室で議論を始める時が来ているように感じています。

◆◆ コミュニティスクールについて ◆◆

私の学校運営方針の一つに、「地域を愛し、地域から愛される学校」があります。その具体に、「学校関係者評価委員会、教育懇話会、避難所運営委員会の活動を通し、コミュニティスクール化への準備を進めていく。」と発表しています。

では、コミュニティスクールとは、どんな学校でしょう。一言で言えば、「学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる、『地域と共にある学校』」です。

文部科学省は、学校のコミュニティスクール化を急いでいます。学校は地域の核となる場所だと言われてます。全国的に見れば、少子化が進み、学校という組織を継続的に維持するには、地域の協力がどうしても必要に

(委員)保護者代表・地域住民
地域学校協働活動推進員 など



学校運営協議会

学校運営への必要な支援に関する協議

なっている学校が、都市部を除くほとんどです。だからこそ社会総掛かりの学校づくりが急がれているのです。

ところで、例えば神奈川県は公立高校は全校コミュニティスクールになりましたが、「高校を支える地域」の設定の難しさや、管理職が地域の声を取り入れるのが苦手な場合、運営協議会（コミュニティスクールの会議母体）がうまく動かない等、導入の難しさが聞こえてきます。一方、昨年度（南郷中学校校長の時）、町教育委員会と視察に訪れた、横浜市立東山田中学校の運営協議会は、学校と運営協議会がとてもいい感じがかみ合っており、素敵なコミュニティスクールを構築されていました。もちろん長柄小学校としては、後者を目指すわけですが、コロナ禍の今、いくつかの先進校視察を随時企画して勉強させていただこうと考えています。その際には、地域の皆さまにも視察報告を必ず行いますので、楽しみに待っていてください。

◆◆ 御霊神社の氏子の皆さんが困っているそうです。 ◆◆

5時過ぎに御霊神社横を車で走っていると、長柄小学校の多くの児童が遊んでいることに気づきます。長柄小学校の子どもにとっては大変重要な場所だと認識していますが、氏子さん方が、放置されたゴミの量に頭を悩ませているというお声が届きました。お子様連れのご家族も多く利用されているようですが、お気づきになった方も多いかと思います。学校でもきちんと指導していきますが、ご家庭や、地域でもご指導ご協力をお願い申し上げます。

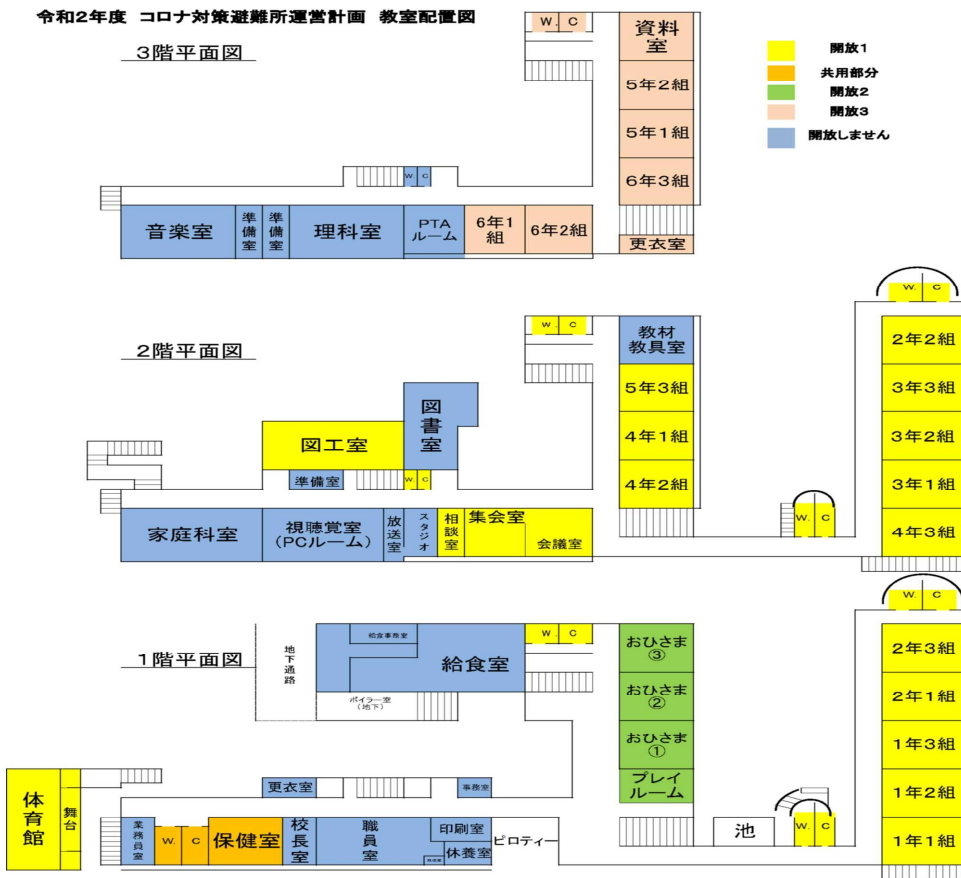


◆◆ 梅雨入り前に、無事田植えが終了しました。 ◆◆

梅雨入り1日前に、5年生の田植え経験が、分散登校の中、無事終了いたしました。お世話下さっている さんが「父が始めて以来、40年続いている」「長柄小の子どものため、次の代まで続けばいいな」と語って下さいました。嬉しい思いで一杯です。8月15日お盆の頃には花が咲くそうで、今年は登校中に気づく児童もいそうです。稲が無事育つことを願いました。

◆◆ 葉山町の避難所における新型コロナウイルス感染症対策マニュアルに従い計画を作りました。 ◆◆

令和2年度 コロナ対策避難所運営計画 教室配置図



このコロナウイルスの影響下では、三密を避ける避難が求められます。体育館での受け入れ人数は従来の予定数より少なくなります。

- ①代わりに、普通教室を中心に、2家族（8人）を目安に、教室に案内することになります。足腰の弱い高齢の方を含む場合、1階奥の2年3組から1家族ずつ案内します。
- ②階段があっても大丈夫なご家庭は、2階奥の2年2組から順に1家族ずつ案内します。
- ③要介護者等を含むご家庭は、おひさま教室とプレイルームで対応します。
- ④1家族ずつ案内し、教室が埋まったら、各教室2家族目を案内します。
- ⑤3Fは、感染予防の観点で、他階とは別にひとり1教室にて避難していただく予定の医療ケアエリアです。

以上の手順で開放予定です。

※開放できない特別教室等も、上記図を、学校HP上でカラーでご覧いただければ（道標ない旅第9号を見ただけで載っていますので）、分かっていると思います。

万が一、大雨による避難や大震災による非難が起こった場合には、この計画に従って、学校を開放します。子どもたちの心の安定のためには、一日も早い応急教育の再開が望ましいのですが、コロナの蔓延状況等をよく勘案しながら、避難所運営したいと考えています。その際には、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。